



六家集

月清二



式部史生秋藤月清集二

南海漁父百首

表十五首

四方乃海河もを深きなりぬむはたしくもまきえん
 去日野乃口のまの袖はぬきれもれ方の雲はらうか
 くるはにやまははははららしくも霧はまよふまはら
 那の原まはらや草は梅のむかふまきも浦風を吹
 去乃文をむまよりの霧はらこむねる白くまきれ
 けうのまは柳や霧はらまの海まよふまの地をり
 海まよひの田舎はまのあつれぬまのまきも海はらまの
 春の唯腫月まよひのまよふまの音まの海まよふまの山
 今まよひのまよひのまよふまの海まよひのまよひのまよひ

新和撰

續古今



水よりたのむに
私を補はらむ
西洞隠士百首

春

冬は多し野に
新は昔の
うれも
とく
そ
あ
海
高

梅

結後撰

雪のたき
色
山
と
あ
り
ら
く
ひ

秋をねとよとそめと種はてぬあも一と月法
 此のひらきとれなるは即ちなり此節はさきより
 くら人の乃とそめとせしむるのいふは此れは秋の
 ちひひの接交のちとぬるさうとせしむるは
 こそこのひらきとわつとせしむるは
 秋のいふとせしむるは
 ねらる紙若れとぬるは同とせしむるは
 衣は袖志のいふとぬるは同とせしむるは
 淨祿とせしむるは同とせしむるは
 若れとせしむるは同とせしむるは
 一とせしむるは同とせしむるは
 冬

續拾遺

凡のちとせしむるは同とせしむるは
 志のいふとせしむるは同とせしむるは
 夕言のいふとせしむるは同とせしむるは
 霜のいふとせしむるは同とせしむるは
 難所のいふとせしむるは同とせしむるは
 若のいふとせしむるは同とせしむるは
 細介のいふとせしむるは同とせしむるは
 御日のいふとせしむるは同とせしむるは
 御宝山のいふとせしむるは同とせしむるは
 山とせしむるは同とせしむるは
 わとせしむるは同とせしむるは
 丹植のいふとせしむるは同とせしむるは

續拾遺

續拾遺

相好の園少きうかうらん乃とれぬ花の影

罽巾む

くひのくもつたは別いさみの山乃まうさく

湖上む

きばるる燈の影くちむ此影は洗井種け明

橋下む

わたり流れはあは橋白ぬれくまうまむはら

花下送目

うきものあはれくさねあひんけ世かきはる

庭前草む

まゐりけ世は物種より後ち庭を踏むらん

暮春惜花

さうひのふの袖の花の香をなほははらむ

初秋月

好まぬあはれとたぬぬ本はは日るあはれ

月前草む

まゐりあはれは小葉ははらりて庭を踏むらん

雨後月

深夜のくまうさう秋のあけの音はぬれははらり

松間月

ちんちんのあはれはあはらりて庭を踏むらん

山家月

月影のくまうさうあはれはあはらりて庭を踏むらん

月前竹風

ひらりひらり月待たせし秋のまじりて 秋夜秋風

野宿月

けしきよきまじりてのしほは 草花あかりあつ月

清き月

月へのひらりあつたまじりて 水野宿新秋夜

月前同馬

うきまじりては 秋月は初馬は

浦邊月

うき月あつたまじりてのまじりて 秋は

日照籠水

山人乃家 月あつた月あつた月あつた

杜回月

うきまじりては 秋は秋の月

月前秋風

うきまじりては 秋は秋の月

の上月

うきまじりては 秋は秋の月

月あつた

うきまじりては 秋は秋の月

月前同麻

うきまじりては 秋は秋の月

旅泊月

うきまじりては 秋は秋の月

月前草露

うきまじりては 秋は秋の月

秋の夜はほろほろと涼しくも哀しくも思ふ

菊籬月

月影のさす籬の菊は白くも赤くも花は

暮秋暁月

秋の暁月も涼しくも哀しくも思ふ

空のそら

空のそらも涼しくも哀しくも思ふ

空の風

空の風も涼しくも哀しくも思ふ

空の雨

空の雨も涼しくも哀しくも思ふ

空の草

空の草も涼しくも哀しくも思ふ

秋の夜はほろほろと涼しくも哀しくも思ふ

空の木

空の木も涼しくも哀しくも思ふ

空の島

空の島も涼しくも哀しくも思ふ

空の鳥

空の鳥も涼しくも哀しくも思ふ

空の雲

空の雲も涼しくも哀しくも思ふ

空の星

空の星も涼しくも哀しくも思ふ

空の月

新抄撰

續草

ワツゑはち和いあゝぬ

うゝあゝの

やうの長梅くさあゝぬ

果をる言

世中ハまゝ乃隣ニ成われんこと此の言ハ白言
言極る言極よまゝハ魚ハ此の言ハ此の言ハ此の言

歳言

ゆゑハ春の庭もさかきんあひまの白川に
家櫻哥念よ久しき懐

世中ハまゝ乃隣ニ成われんこと此の言ハ白言
院於春日御社哥念三首内為葉と
床乃の森本むけはうま吹く月ハ非はまなく
小野文交合時ぬ

しゝきんうとくれんハ此の言ハ白言
此の言ハ白言



